

○ 刊行によせて

○ 「たねちゃん」はNPO法人しづたねで理事長をしている清田の体験から生まれたキャラクターです。清田には4歳下の弟がおり、肥大型心筋症で17歳の6月に他界しました。お葬式では、帰り際にたくさんの人からこんなふうに声をかけられました。

○ 「亡くなった弟くんの分もがんばって生きるのよ」

○ 「お母さんを支えてあげてね」

○ 「泣かないで、あなたがしっかりしないと」

○ 声をかけてくれた人たちの優しさはよくわかっていましたが、清田は何年も泣けなくなりました。

○ 兄弟姉妹を病気で亡くした子どもたちの中には、お母さんお父さんの圧倒的に大きな悲しみの前に自分の悲しみが後回しになったり、自分がお母さんお父さんを支えなくてはいけない、亡くなった子どものかわりにならないといけないと頑張りすぎてしまう子もいます。亡くなった兄弟姉妹の話をするとお母さんお父さんが泣いてしまうから話してはいけないと思っている子も。

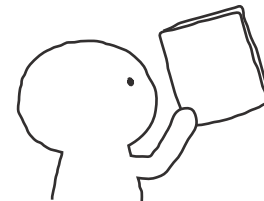
○ そんな子どもたちに、ひとりぼっちじゃないこと、泣きたいときには泣けばいいこと（笑いたいときには笑っていいこと）、亡くなった兄弟姉妹の話をしてもいいこと、お母さんお父さんがあなたを大好きなこと…そして、ひとりぶんの人生を生きるだけでも大変なのだから、亡くなった兄弟姉妹の分まではがんばらなくていいし、まわりの人からかけられる言葉を100%で受け止めなくてもいいこと、そんなことが伝わるといいなと願ってこの冊子が生まれました。

○ 兄弟姉妹を見送った子ども、そんな子どもの周りにいる人、そんな子どもが胸の中にいる大人の方々に届けばうれしいです。

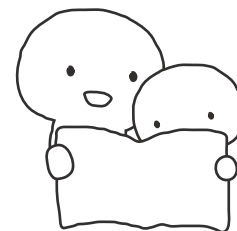
きょうだいさんのための本の

おすすめのつかいかた

きがむいたときによむ

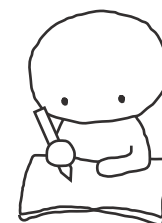


よんでもらうのもいい



ちよっぴりくつつくのもいい

かきこんでみるのもいい



なみだがでたら
ぎゅっとしてもらおう



表紙の次のページに、本を受け取ってくれるきょうだいさんにメッセージを書くのもおすすめです。

「きょうだいさんのための本 おにいちゃん、おねえちゃん
おとうと、いもうとを亡くしたあなたへ」別紙